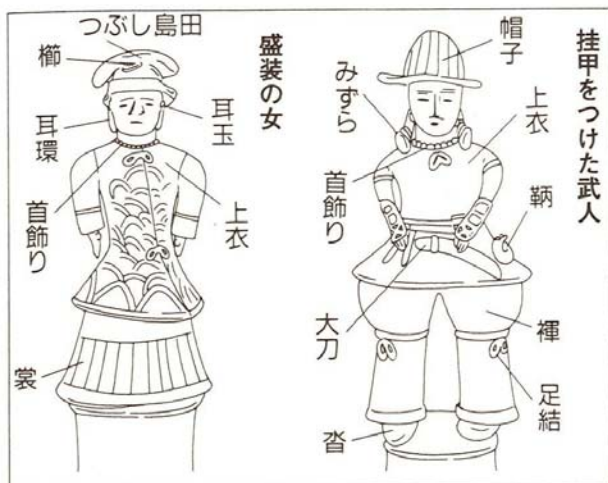


は男女とも長髪で、盛装の男性の場合、両耳付近で棒状に束ねた「美豆良」が一般的である。女性の埴輪では「つぶし島田」の髪型や、櫛をさしたものがある。

装身具では、古墳の副葬品のなかに玉類や金属製品がみられる。耳飾りとしては、垂飾付き金製耳飾りや銅・金・銀張りの耳環がある。首飾りでは勾玉・管玉・小玉などを連ねたものが多く、腕飾りには金属製品と玉類からなるものがある。これら以外にも、頭にかぶるものでは、金製の冠や金銅製の冠帽があり、布製の帽子も埴輪にみられる。帯や履にも金銅製のものがあるが、布または皮状のものを表現する埴輪もある。

第二節 豊津の古墳

古墳時代の墓として、豊津町内には前方後円墳・方墳・円墳などがあり、ほかに横穴墓も分布する。前方後円墳は惣社古墳、方墳は甲塚方墳が各一基ずつ確認されている。円墳は、節丸地区の被川両側の丘陵部に



第9図 埴輪の服飾

最大の古墳群があり、八景山南麓から甲塚周辺や、綾野から徳永の祓川東岸段丘上やその後方の台地に集中して分布する。その数は現在一二〇基余りであるが、未確認のものも多く、少なくとも一五〇基以上が存在すると推定される。また、横穴墓は北西部の彦徳ひんごくから高崎地区に密集し、北東部の徳永地区にも分布するが、その数は合計数百基に達すると推定されている。

これらの古墳の築造時期は、徳永川の上遺跡で弥生時代終末から古墳時代初期の墳墓が発見されているが、明確な墳丘や石室を持つ古墳では柱松古墳群が最も古く四世紀後半にさかのぼる。続く五世紀代では、北垣古墳群で終末期のものがあり、同時期か若干古い古墳は節丸地区や八景山周辺にも分布が予想される。六世紀代になると、各地域の家父長層も直径五〜一五メートルの古墳を造るようになる。この時期の首長層の墓は甲塚地区に彦徳甲塚古墳（円墳）や甲塚方墳（方墳）などが営まれている。長さ二〇〜四五メートルの墳丘を持つ円墳や方墳である。

一 柱松古墳群はしらまつ

柱松古墳群は、八景山の南東約五〇〇メートルで、長養池の東側丘陵上に点在した古墳群である。この丘陵は北方へしだいに低くなり、当古墳群付近で標高三九メートル前後を計る。所在地の住所は大字惣社字柱松である。

柱松の丘陵地一帯は昭和四十二年ごろ宅地造成が始まり、当古墳群を構成した五基の円墳はすべて破壊された。3号墳は造成中の観察により内部主体が粘土礫と考えられ、4号墳は昭和四十一年七月に行われた調査の結果、墳丘内部から粘土塊が検出され、同様に粘土礫であることが推定されている。

第4章 古墳時代

調査は福岡県教育委員会によって実施されたが、既に大部分の古墳が破壊されてしまっており、1号墳の主体部のみが調査されるにとどまった。

1号墳の調査

墳丘は二段築成で、高さは約4メートルで、墳丘全体に葺石が観察されていた。墳丘の直径は二八メートルで、幅四メートルの周濠がめぐらされていた。

内部主体は大形の箱式石棺一基で、内面に丹彩が施されていたが、全体の規模は不明である。

出土遺物は銅鏡二面・鉄剣四本・鉄刀一本・刀子五本のほか鉄製の針や用途不明の鉄器がある。

なお、硬玉製勾玉などの玉類が調査前に持ち去られたとの伝聞もある。銅鏡は一面が直径九五センチの仿製平縁変形獣帯鏡(第10図)で、一部に平織絹布の付着がみられる。もう一面は、仿製平縁乳文鏡(第10図)で、直径一四・二センチで、同様に鏡面全体に平織絹布の付着が著しい。鉄剣



第10図 柱松古墳群出土銅鏡

は四本ともほぼ同じ形態をなすもので、最も残存の良いものは全長四〇・八センチメートルを計る。鉄刀は先端部が欠損しているが、全長四〇センチメートル前後で、茎の長さは八センチメートルである。刀子のうち二本は茎の部分が蕨手の形態をなすものである。針は先端部が折損しているが、長さ九センチメートル前後と推定され、基部に糸を通す針穴がある。

遺跡の性格

発掘調査報告書では、1号墳は「豊津地区としては、その内部主体、副葬品の状況から、四世紀後半頃の司祭を兼ねた地域集団の首長クラスの墳墓であり、惣社古墳群が、その一族に属するものであったとも考えられる。」とされている。当古墳は町内で最も古い時期に属する古墳であり、数少ない前期古墳である。また、墳丘の規模が直径一八メートルあることから被葬者は首長層であることは確実である。更に、内部主体が苅田町石塚山古墳のような竪穴式石室ではなく箱式石棺であることから、被葬者は在地的な性格が強い首長であったと考えられる。

二 彦徳甲塚古墳

彦徳甲塚古墳は豊津町北部で、八景山に延びる豊津丘陵の一支丘にある。古墳は鞍部が広く平坦な丘陵尾根線の東側に位置する。北東方向には京都平野が広がり、南西側は今川中流の犀川町本庄周辺の盆地を眼下に見渡すことができる。標高は約四二メートル前後である。

この一帯には、古墳時代後期の中小の古墳が数多く分布する。この古墳群の南部には六世紀後半代の直径二〇～五〇メートル程度の中規模古墳が甲塚方墳を含め五基点在し、北部の八景山周辺には同時期の直径一〇～